

第2回下野市総合計画審議会 会議録

日 時 令和7年5月14日（水） 午後2時00分～3時30分
場 所 下野市役所 303・304会議室
出席委員 秋山幸男委員、金子康法委員、松山裕委員、佐間田香委員、黒川秀一委員、原貞夫委員、中村祐司委員、長岡裕介委員、高田広行委員、樺沢修委員、村田直隆委員、川俣一由委員、諏訪守委員、藤川智子委員、木村千里委員、兒玉和実委員、高橋裕美委員、高山裕介委員、門田行史委員
欠席委員 加藤主税委員
事務局 伊澤総合政策部長、川俣総合政策課長、早乙女課長補佐、津田副主幹、大越主査
受託者：ランドブレイン株式会社（以下LB）2名
傍聴者 3名
取材 1社

【次第】

1. 開 会
2. 会長あいさつ
3. 議 題
 - （1）第三次下野市総合計画（序論案）について
 - （2）第三次下野市総合計画基本構想（将来像）について
 - （3）その他
4. 閉 会

【開会】

（事務局） ただいまより令和7年度第2回下野市総合計画審議会を開催する。
本日、加藤委員から欠席のご連絡を受けているのでご報告する。

【会長あいさつ】

（事務局） 開会にあたって、会長よりごあいさついただく。

（中村会長） いよいよ季節が変わってきて、暑くなってくるなど感じている。

今朝の新聞でも、相互関税の話で、米中間の急展開や、国内の自動車産業界での大規模リストラなど、世界全体が非常に政治面、経済面で落ち着かない状況にあると思う。

さらに、私たちの足元の状況も不安定で動揺しているように感じる。今後の不安を助長するような事件が多々起きている。おそらく日本のどこのコミュニティでも、足元では貧困の問題、あるいは高齢者の方々の生活の問題など、人との交流がなかなかできていないところが結構あると思う。

それを考えると、この総合計画というのは本当に重要だと思っている。この下野市に住まう、あらゆる人たちのために、実はこの総合計画をどう作るかによって、将来へのメッセージにもなり、実際の施策展開に繋がっていくことになる。昨今の課題解決に向けて、総合計画の策定を通して何とかしていきたいという思いを新たにしている。

現在大学では新入生の管理を担当している関係で、コロナ禍を経験した学生たちと直接対話をする機会が多いが、非常にイキイキしているように見える。オン

ライン化も進んでより世の中は便利になっている一方で、本日この場にご参集いただき、対話によって知恵を結集できるということは大変貴重で、自分としては大変ありがたく思っている。

本日は特に将来像のところで、皆様から一言ずついただきたいと思っている。どうかよろしくお願いいたします。

【議事】

- (事務局) 下野市審議会条例第 16 条により、会長が会議の議長となる。以降の議事進行は中村会長にお願いする。
- (中村会長) 本日、委員定数 20 名のうち、19 名、半数以上の委員が出席しているため、審議会条例第 6 条第 2 項の規定により会議成立とする。
- 本日、傍聴の方がいらっしゃっており、会議の公開についてお諮りする。本会議を公開することで異議はないか。
- (委員一同) <了承>
- (中村会長) 続いて本日の会議録署名人を指名する。名簿順で松山裕委員、佐間田香委員にお願いする。議題に入る前に事務局より資料の確認をお願いする。
- (事務局) 事前送付資料の確認をさせていただく。

[資料確認]

(1) 第三次下野市総合計画（序論案）について

- (中村会長) 議題（1）第三次下野市総合計画（序論案）について、事務局より説明をお願いする。
- (事務局(LB)) 第三次下野市総合計画（序論案）（資料 1）
- 第三次下野市総合計画（序論案）は第三次総合計画の前提条件等を整理している。目次に記載のとおり第 1 章から 5 章までの構成としている。
 - 第 1 章の「計画策定にあたって」は、前回審議会でお示しした第三次計画の策定方針の内容を編集したものとなる。3 頁の 6 計画の進捗管理は、この序論の内容として新たに記載したものである。
 - 4 頁の第 2 章「下野市を取り巻く情勢」は、前回会議でお示ししている基礎調査結果概要のうちポイントとなる情報を序論の構成にあてはめ、抜き出した記載としている。14 頁の（5）人口の将来展望は、基礎調査結果ではなく、令和 6 年度に庁内で改定した人口ビジョンについて、前回会議にて総合戦略の策定の関係で報告したとおり、人口の長期目標について掲載している。
 - 15 頁の第 3 章「市民意向」は、令和 6 年度実施のアンケート調査結果報告の内容を掲載している。また、19 頁は、まちづくり中学生ワークショップの概要を掲載し、20 頁に中学生の提案のまとめを記載した。21 から 22 頁は、市民懇談会、関係団体懇談会の概要、まちづくり意見募集について、掲載している。
 - 23 頁の第 4 章「現行計画の評価」は、前回会議資料の情報を中心に掲載している。なお、施策評価と市民満足度比較の関係で、前回会議でのご指摘を踏まえ、いずれも 5 点が最高点となるよう調整した。
 - 27 頁の第 5 章「まちづくり課題」は、これまでの本市を取り巻く情勢や市民意向、第二次後期基本計画の検証を踏まえて設定した課題を記載した。この後、基本構想に示す施策大綱の部分で、いわゆる総合計画の政策分野ごとに基本目標を定め、施策展開をしていくと

いう組み立てになっていくが、その施策大綱の区分を見据えて、今回6つの区分で課題を整理した案である。

課題1) 下野市に暮らす若い世代の定着化として、特に下野市に生まれ、育つ子どもたちとその親世代が、住み続けられるようにすること、定住の促進が求められているということで、若い世代の結婚から子育てに至る切れ目のない支援の充実、若者が将来的にも市内で活躍し続けられる環境づくりということを記載している。

課題2) 下野市は、東日本の政治・文化の中心として栄えた歴史性、特徴的な文化資源があることから、こうした地域の特徴を市民が共有しながら、世代を超えたすべての市民の学び・育ちを支えていくこと。また、これまで整備してきた運動公園などを活かして、市民がスポーツに親しむ環境の維持・充実、市民のスポーツ活動への支援といったことを記載している。

課題3) 市民の健康福祉の維持について、全国的にもトップクラスの医療環境という地域の強みを活かし、福祉のさらなる充実、医療と介護の連携体制の強化について記載している。

課題4) 農林業などの第一次産業の経営の効率化・省力化の取組の必要性、さらに多くの医療機関の立地や、令和7年度以降供用開始予定のスマートインターチェンジ開設による交通アクセス利便性向上等の好条件を活かした企業の誘致の推進と、一定の集客力を持つ施設の立地を活かした観光まちづくりの推進といったことを記載している。

課題5) 広域交通利便性に恵まれている一方、自治医大駅周辺に都市機能の集積を図っていくことや、地域内の公共交通網の利用環境の改善の必要性、全国的な自然災害の激甚化や、生活インフラの破損事故多発などを背景にした都市基盤施設の更新、防災、防犯体制の充実、市内の緑の維持保全について記載している。

課題6) 下野に暮らす市民のさらなる主体的なまちづくり等への関わりの醸成や地域コミュニティの再構築に向けた取組、持続可能な行財政運営の推進、行政サービスにおけるDXの推進、引き続き選ばれる下野市になっていくためのプロモーションの推進や魅力の発信に努めていくということを記載している。

(中村会長) ご質問、ご意見があればお願いしたい。

(兒玉委員) 課題というのは結局、理想と現実のギャップから問題が生じて、そこに対して何をしていくかというようなことだと思うが、そもそも市がどうありたいか、みたいなどころと、現状とのギャップという面から、こういった課題というものが出てくるのではないのか。これらの課題は実際どのように導き出したのか。

まずあるべき目標を設定し、今回調査した内容と照らし合わせ、ここはこういうギャップがあるのでこういうことやらないといけない、というようなストーリー、誰が見てもわかるような形が必要ではないか。例えば課題1のなかに人口減少ということを書いているが、そもそも人口が減っていったらいけないのか、という面も考えるべきで、下野市行政としては将来どういった人口であるべきなのか、その中の若年層、子供達、高齢者の割合がどの程度であるべきか、というものがあって、そこに向かっていくために何をしていくべきかというものはあるはずだが、そういった前提がないまま、人口が減るのはまずいから若い人を増やそうです、というのは話が違うのではないか。

(事務局(LB)) 序論に記載した各基礎調査をはじめ、直接市民意向も伺い、第二次後期基本計画の評価といったところを前提条件として踏まえ、さらにこの後、施策大綱の設定のもとに基本計画として展開していく想定だが、その基本計画としてこういうことをやっていかなきゃいけない、その前提となるまちづくりはこういうことを

していかなければいけないだろうということを、第5章のまちづくり課題として整理している。

(中村会長) 課題のとらえ方自体も計画論としては大事な議論だが、この場合はむしろ委員各位から、もっとこういう課題があるのではないかと、いったところをご指摘いただいた方がいいのではないかと。

(兒玉委員) 目標とかあるべき姿を共有し、議論していかないと課題というのは出てこないのではないかと。今ある10年前に作った計画がどうだったのかという話や、皆さんが暮らしてきてどうだったかという話の中で出てきているのが今書かれている課題だろうが、この先10年経ったら何が出来ていたらいいのか、という前提に対して、自分たちはこういうことを計画していくべきだというのが課題だと思う。その前提が無いのではないかと。

(事務局) まちづくりの課題については、市を取り巻く情勢の把握、市民の意向、第二次総合計画の検証などを踏まえて、一旦課題という形にまとめさせていただいたが、大切なのは、基本構想の目指す将来像についてご意見賜り、下野市のあるべき姿、10年後のあるべき姿を明らかにしていく部分と考えている。

(秋山委員) 将来的に市人口が間違いなく減少していく中で、書いてあるようにいろんな課題が出てくるが、では誰が支えていくのかという面で、やはり総合計画という、10年後を見据えるというのも大変なことだと思うが、その中で短期的に取り組むべきところも考えていかなければならないだろう。今回資料では、まちづくりの課題ということで6点整理してあるが、これらはまずアンケート結果とかそういう傾向把握のうえで、誰もが共通認識を持っている部分ということになるだろう。総合計画にこういったことを盛り込んで、そこから1つでも、そういう不安を解消していく取組とか、人口減少をはじめ、種々の課題解決に向けても、急ではなく徐々に進めていけるような施策を審議していくのが私達の役割だと思う。なので、今回はこの課題1と2について審議するとか、全体を同時に議論するとなかなかまとめるのも大変だと思う。今後、会議も何回かあるわけで、そのような分類をして進めてもいいのではないかと。

(金子委員) 先ほど課題の出し方についてご指摘があったが、現行の第二次総合計画後期基本計画では目標が1から6まであって、今回それに対する施策評価や市民満足度をふまえて課題というのが出されていると思う。少なくともこの10年間で、これまでの目標に対してどこができて、どこができなかったのかというようなところから課題が導き出されているのではないかと。

(原委員) 1頁、第1章の1策定の趣旨の文中に「新型コロナウイルス感染症の拡大は…」という記載があるが、これらの影響、変化に対して、前向きにとらえるという意味合いはということなのか。そもそも先のコロナ禍の発生要因自体がはっきりしているわけではない状況で、個人的には、前向きにとらえるという表現はあまり適切ではないように考えている。

(兒玉委員) まちづくり課題ということで、皆さんのご意見も伺ってきたところで、少々理解できたのは、ここの課題というのは、これまでを振り返って、どういったところが問題なのかを語っているのに過ぎないということ。私の思うまちづくり課題というのは、これから先に解決すべきことだと捉えていたので、そこは誤解を生じていたところだと思う。あと課題ということでは、この序論の中でもSDGsのことが出ているが、その辺の話は何か入ってくるのか。

(事務局) SDGsに関しては、現行の第二次総合計画後期基本計画の目標ごとに位置付

けている基本施策ごとに、SDGs 17 ゴールのアイコンから、あてはまる内容を表示し、SDGs の考え方と連動した施策展開を図っていくようにしているが、第三次総合計画としてどうしていくか、今後、ご意見を賜り検討させていただきたいと思う。

(児玉委員) SDGs でいうなら、例えば貧困をなくそうとか飢餓をゼロに、のようなところよりは、今後ジェンダー平等の実現のようなところが、どこかに入っていないといけなくなると思う。

(佐間田委員) 2 頁の計画策定にあたっての基本的な視点の(1)地域の魅力と特色を活かした、将来世代につながる計画づくりの1行目、「地域の歴史や文化…」という文章があるが、この中に、人的資源というか、私たち市民、人の資源という意味合いは入らないのか。

もう1点、この課題に関して、現行計画の評価のところで、施策実施面は評価されているが、市民の満足度が今一つなものについては、この施策でとりこぼされた人々の満足度が低い結果になったのではないかと考えられる。そのような視点で、今のご意見のような、ジェンダーであるとか、貧困であるとか、誰一人取りこぼさないというような文言が出てきていないと思っていた。また、この課題の中に、DXの推進とかIT化とかそういうものに対して、高齢者だとか、そういう方面が苦手な方々というのも、多分取りこぼされていく可能性が高いと思うので、そういった認識もどこかに入れていただけたらと思う。

(中村会長) 歴史や文化という概念のなかに当然、人の関りというものが入ってくるだろうが、人的資源という具体のキーワードとして、課題の文章に入れるべきか。誰一人として取り残さないという方がよろしいか。

(佐間田委員) 人が資源であるというところと、誰一人取りこぼさないという認識が読み取れるようにしてほしい。

(村田委員) この課題のところは私も少々違和感があった。この後の将来像(キャッチフレーズ)が、この課題の全てを解決した後の姿を想定しているのかと思ったが、序論の中で見ていくと、現行計画の政策単位で整理して、次の基本計画の前提のようになるという、そういうことでよろしいのか。

(中村会長) そのような理解だと思う。

(事務局) 総合計画については、特定の分野別計画というよりも、基本的には行政の政策分野全体を網羅するものと認識している。整理の視点として、後に基本計画として示していく目標区分(分野)を意識して、6つの課題としたものである。

(村田委員) こういった基本政策の単位で課題を挙げていくのは、計画の網羅性だとか、全体的なシナリオという面ではわかりづらいところがあると思った。この課題を解決したら、下野市はどんなふうになっているのかというところを、行政として想定されているものがあるのなら、仮説だとしてもきちんと示していただいた方がわかりやすいかなというふうに思う。

(中村会長) その辺りは、次かその次の審議会の議題として細かく考えていくことになるのではないかと。今この時点ではなかなかまだ出せないかと思う。

(村田委員) また計画の組立て方になってしまうが、先に課題が出されて、これに沿っていくとなった時に、本当にそれが下野市の目指すところ、市民の皆さんが目指すところと一致していくのかどうか。前回の策定方針或いは2頁³計画策定にあたっての基本的な視点にもある、分かりやすい計画づくりという面で、これが分かりやすい計画かというのも気になるところである。

- (中村会長) まちづくり課題の捉え方というところだが、分野に区切ってそこに限定して、これが課題だからどう解決しようか、とすると、漏れや偏りが出るのではというようなご懸念かと思う。全部の課題とするのか、柱となる課題のようにするのか。この場合はむしろこういう課題を掲げて欲しいとか、この文言に変えて、こういうふうに言ったほうがいいというのがあれば出していただきたいと思います。
- (事務局) 本日いただいたご意見を踏まえて、第5章のまちづくり課題という表現等を再検討させていただければと思う。
- (中村会長) 確かに複数の委員の方から課題認識のご意見があったので、再検討していただきたい。課題という言い方を変えるのか、何か言葉をさらに足すことなのかもしれない。今回は一応6つに整理されているが、改めて、他にこういうものがあるか、ということで今いただければ有難い。他のご意見はいかがか。
- (原委員) 人口減少・少子化ということで記載があるが、もう何年も前から言われていたことだと思う。そこからまず出てくるのが労働力不足の問題。4頁に「外国人の受け入れ政策の見直し拡大が進んでいます」とあるが、外国人材頼みが過ぎているようにも思う。日本人の方が就職できなくなって、引きこもっているとかいうふうなことも聞くが、何か外国人優遇のような感じもある。下野市としてはどう認識しているのか、何かあるのなら教示いただきたい。
- (事務局) 人口減少への対応という観点で、前回お示した下野市人口ビジョンと総合戦略について審議会でご意見を賜る予定であり、細かい内容については次回ご説明したい。外国人労働者に関して現状では、市としてそれだけに特化した対応方針等を持ってはいない。
- (兒玉委員) 3頁の[6]進捗管理の記載に、PDCAサイクルの進行とあるが、資料としてPDCAサイクルという手法のことまで書かなくてもいいのではないか。こういう手法の話をするのなら、このチェックとアクションのサイクルをもっと短くして、どんどん改善をしながらやっていくみたいなことを言ってもらった方が良いかと思う。
- (事務局) PDCAについてだが、行政の場合、年度で業務を区切っているので、現状の毎年実施が最短のサイクルでの運用ということになる。また、進行管理についてはここである程度表明しておかないと、計画策定後の運用面で不安も出てくるので、PDCAサイクルでやっていくということを、しっかり位置づけた方がいいという認識である。ご議論を賜ればと思う。
- (兒玉委員) 進捗管理の手法はいろいろあるので、あえてPDCAだけ書かなくてもいいのではという意見である。ここだけ他の記載と違って少し細かい話をしているので、馴染まないように感じた。1年サイクルが最短ということだが、そこを例えば、今回はもう少し早くやりますというような宣言が入ってくる方がいいかと思った。言えないのならそれでいいと思う。

(2) 第三次下野市総合計画基本構想（将来像）について

- (中村会長) 議題(2)第三次下野市総合計画基本構想（将来像）について、事務局より説明をお願いします。

- (事務局) 第三次下野市総合計画基本構想（将来像）（資料2）

○基本構想として、本市が目指す将来像とその方向性を示す部分となる。総合計画を策定する上で最も基本となる概念として、自治基本条例の第4条自治の基本理念と第20条総合計画について抜粋した。平成19年に制定した市民憲章も前提になる。

- さらに前回会議でお示した策定方針による「目指す2つの方向性」を位置付け、「誰もが幸せを感じられるまち」と「暮らしたい、働きたいまち」としている。
- これらを背景として、本市がこれから目指していく「将来像」を、資料にあるように、キャッチフレーズとして表したいと考えている。
- また将来像の設定にあたって、昨年度実施した中学生ワークショップや市役所の若手職員によるワークショップ、市民懇談会や関係団体懇談会などを開催し、多種多様な立場や年齢層の方々に本市の将来像に関する様々なご意見をいただいている。これらに加え、この総合計画審議会の中で、いろいろご意見をいただきながら、本市の目指す将来像を定めていきたいと考えている。
- 最後に、県内各市町の総合計画で掲げられているキャッチフレーズと、本市の第一次及び第二次総合計画のキャッチフレーズをお示ししており、今後の審議の参考としていただければと思う。

(中村会長) 将来像の言葉は短いものだが、行政運営の中で常に出てくるものであり、下野市のメインイメージともなる部分、結構大きなインパクトになるところ。今後10年間掲げていくものである。考え過ぎるとかえって出てこないかもしれないが、ぜひ、何かキーワードでも出していただければ、ものすごいヒントになると思う。そこから事務局案としてキャッチフレーズを検討いただき、また審議会でキャッチボールしながら作り上げていくことになる。本当は全員から聞きたいところではあるが、時間的に難しいかもしれない。いかがだろうか。

(佐間田委員) キャッチフレーズということで下調べしてみたが、短く簡潔であって、誰でも理解でき、すぐイメージできるものということだそうで、例えば「みなとみらいよこはま」というのがあるが、覚えやすく、イメージしやすいと思った。資料にもいろいろ記載があるが、若手職員ワークショップからの提案、「治安であんしん 医療であんしん…」とか、日光市の「暮らして満足 訪ねて納得」とか韻を踏むと覚えやすいのかと思った。一案としては「幸せ 生まれる 下野市」というのはいかがだろうか。幸せを感じられるまちと働きたい、暮らしたい、新しく幸せが生れるんだと思えば、他所から引っ越してきてくれる人が増えるのではないか。

(門田委員) 少々課題の議論に戻るかもしれないが、課題1とか課題3の人口減少や医療のところで個人的には関係が深いのだろうと思った。自治医科大学としていろいろ話している中で、やはり高度医療面で日本は世界のトップクラスである一方で、今後の伸び代としては厳しいところもある。ほか何があるのかというところで、ケアをする側の人達、介護する方とか、子供を見ているお父さんお母さん、おじいちゃんおばあちゃんとか、そのケアをする側に焦点を当てみようかと模索している。全国的に調査したところ、そういったところに焦点を当てた取組はまだない。今、ヤングケアラー問題等もいわれているが、先ほどの課題の議論でもあったが、将来的な人への投資というところで、自治医大として、このケアの担い手となる人たちが疲れずに、イキイキと元気に働けるような、そういったところを、医療の現場でできることは限られているが下野市の皆様、市民の皆様に対して何かできることがないかというのを考えている。キャッチフレーズになるのかはわからないが、最近は全世代ケアとか、介護する方・される方とか、ケアする人・される人とか、何かそういったところをすべて網羅すると、取りこぼしというのも無くなるのではないか。

- (中村会長) 個人的には医療福祉分野に限らない、非常に重要な視点だと思う。支える側を支える、ケアする側を一生懸命応援するということは、結局そういった人たちだけじゃなく、周りの皆さんが幸せになる。東日本大震災でもそういうことが教訓として残っていると思う。ボランティアの人たちを支えるという考え方も広まっているのではないかな。
- (高山委員) もともと下野市には「シモツケ くらし ウツテツケ」みたいなフレーズがあったような気がするが、それは使わないのかということと、この場合は将来像という括り方をしているが、コンセプトなのか、キャッチコピーなのか、そこが整理されないままでは考える方もやり難いのではないかと感じた。
- 最初に戻ると、既にキャッチフレーズ自体はあるのではないかと感じていて、「シモツケ ○○ ウツテツケ」と「くらし」のところを空けておいて、自分で選べるようにするようなことも、何か若者目線としてはすごく納得度が高く、自分自身がこのまちでどういうことを実現したいか、どうありたいかみたいなのところを考える余地にもなる良いキャッチコピーだった。今あるものを続けていくことにも価値があるだろうし、丁寧に紐をほどくように整理して馴染ませていくようなことも必要なのではないかな。このまちの生まれだが、誰もが幸せを感じる、幸せ実感都市みたいなのところも、これまで言い続けてきたから、ようやくこのまちはそういうところを目指しているように感じられていると思う。
- (高橋委員) 今のご意見の通り、やはりウツテツケがいいと思う。商店街などでウツテツケの看板など目にするが、うちの娘は歌い出すくらい浸透していると思う。このキャッチコピーは、音楽付きでもPRしていて、学校でも聞いているらしい。このように折角ウツテツケで浸透してきているのに、新しくキャッチフレーズが増えてしまうのもどうなのか。現行総合計画の将来像も素敵だと思うが、少々全部盛りという感じで、言葉として若干長いと思う。もったいないとも思うが、フレーズとしては何かに絞った方がいいと思う。また、東の飛鳥の方も、今前面に出していると思うので、ダジャレみたいだが、飛鳥の部分と、将来の明日とか掛け合わせてもいい気がする。
- (中村会長) 子供も口ずさんでくれるような、メロディーがついた将来像というのはすごいヒントかもしれない。
- (佐間田委員) 私も実は、最初はウツテツケがいいのではと思ったが、市としてはどう位置付けているのか。
- (事務局) ウツテツケも東の飛鳥もどちらも市のキャッチフレーズとして現在自由に使えるようになっている。どこかに限定しているものではない。
- (黒川委員) 下野市の特徴として姿川や田川を軸にした田園風景というのがあると思う。これを維持するためには農家の力がものすごく必要だと思っている。しかし下野市においても高齢者の増加に伴い耕作放棄地が増加傾向にあるが、大規模農家も増えており、結構大丈夫だとは思っているが、未だ小規模の農地が多く、耕作放棄地になりやすいと思う。もっと地籍調査等を進めて境界を確定しながら広い土地にしていく必要があると思う。
- (木村委員) 資料の2頁の目指す2つの方向性の記載があるが、「誰もが幸せを感じられるまち」の1つだけでも結構すべてを包含できるのではないかな。右側の「暮らしたい、働きたいまち」、これができるということは、すなわち幸せということにつながると思う。「誰もが幸せを感じられるまち」一本にして、その中に働ける場所があって、自分の暮らしがきちんと守られる。あともう1つは、教育或いは教

養。人生 100 年時代と言われる中で、生涯学習とかそういうものも考えないといけない。将来の方向性ということでは、やはり「幸せ」であることが一番かと。働くことも大事だし、教育、医療介護福祉、そういうこともすべて含めて考えた方がいいのではないか。

(3) その他

(事務局(LB)) 前回議事録の確認について先日ご案内させていただいている。本日中を期限としているので、本日この後にでも、もし議事録についてご意見等あれば返信をお願いしたい。

(事務局) 次回、第3回審議会は6月25日開催となる。開催通知を、メール希望の方には送付済み、郵送希望の方には机上に配布したので、ご確認いただきたい。

(秋山委員) 先ほど基本構想の将来像（キャッチコピー）について審議し、結論は出ていないが、今後どういうふうにまとめていくのか。毎回議題を潰していくようなことでなく、議論の進め方についても何か共有できた方がいいのではないか。

(事務局) 初回に配布した全7回の開催予定に各回の議題についても記載しているが、本日の将来像について、今回いただいたご意見を反映した事務局案を作成し、次回審議会にご提案して、ご意見を伺いたいというふうに考えている。

(中村会長) 今日は委員全員からお伺いできなくて申し訳なかったが、もしあればぜひ次回でもお伺いしていきたい。

(事務局) 今日発言できなかったが、ご意見ある方がいれば、後日でも事務局までお知らせいただきたい。

(金子委員) 次回で概ねキャッチフレーズを決めていくような話であるが、総合計画の内容を煮詰めて、何を重点的に進めるのかが見えてきた上で、キャッチフレーズを決めるべきかと思う。先ほどのご意見のように、まず総合計画全体の方向性が確認できてからではないか。

(事務局) キャッチフレーズについては、次回で決定することはない。今後の基本計画の議論なども踏まえ、最終的に決定できればいいと考えている。

(松山委員) 序論第5章の課題6で記載しているような、市民の誇りと愛着の醸成に結びついていけばいいのではないか。

【閉会】

(事務局) 以上をもって第2回下野市総合計画審議会を閉会する。

以上

会議の経過を記載し、その相違がないことを証するためにここに署名する

会 長

署名委員

署名委員

